話題の講義ライブ
LIVE 2012

Today's Program 平和学入門

RYUKOKU UNIVERSITY
龍谷大学

国際文化学部 国際文化学科

5.17.Thu. at Seta
13:35~15:05
清水 耕介 教授

軽妙トークで引き出される「平和」を学ぶ能動的姿勢

講義の流れ
ルワンダやパレスチナの紛争などを具体的な事象として取り上げ、現代の世界における「平和」について議論する。

醍醐味
先生・学生間の活発な意見交換により、他者の多様な考え方に触れられる。同時に自分の考えを深化させ、発表する力も身につく。

大教室で繰り広げられる学生参加型のレクチャー

琵琶湖南端の豊かな自然に囲まれた瀬田キャンパス。そこに2010年4月に完成した新教室棟の目玉とも言うべき、およそ600名のキャパシティを誇る円形の階段教室が今日の講義「平和学入門」の舞台だ。清水耕介先生が登壇する頃には、教室の最後列まで学生で埋め尽くされた状態に。壇上に注目する彼らの表情には、何かに期待するような高揚感と緊張感が入り混じる。

「それじゃ、先週出してもらったコメントからいくね。『戦争と紛争の違いがよくわかりません』というのがありました。この自然に囲まれた瀬田キャンパス。そこに2010年4月に完成した新教室棟の目玉とも言うべき、およそ600名のキャパシティを誇る円形の階段教室が今日の講義「平和学入門」の舞台だ。清水耕介先生が登壇する頃には、教室の最後列まで学生で埋め尽くされた状態に。壇上に注目する彼らの表情には、何かに期待するような高揚感と緊張感が入り混じる。

「それじゃ、先週出してもらったコメントからいくね。『戦争と紛争の違いがよくわかりません』というのがありました。この違い、言える人！」。唐突な質問にもかかわらず、数か所で手が挙がる。「はい、そこの君！」。発言を促された一人の学生が答える。「戦争は基本的に国と国との争いで、紛争は国の内部的な争いのことを指す。うん、その通りだね」。回答の中身が全員に伝わるように繰り返し、それに対してコメント、最後に発言者の名前を確認するという一連のやりとりは、いわゆる〝掴み〟などではない。清水先生がもっともこだわる「学生参加型」の講義の始まりを意味しているのだ。

戦争と紛争の概念を明らかにし いま、何ができるかを検討

戦争と紛争の違いについて一定の答えが出た後も、清水先生の問題提起は続く。「実は今の時代、『紛争』はあっても『戦争』はあまり存在しないという考え方もあるんだけど、なぜだと思う？ 何が変わってきてるんだろう？」。数十秒の沈黙を経て「武器が変わった」「規模が大きくなった」といった意見が出始める。その一つひとつに「あぁ、なるほどね」と頷く先生。決して否定はしないものの、「ほかには？」と別の意見を求め続ける。そうこうするうちに、ある学生から「宣戦布告をせずに、いきなり始まるようになった」という意見が浮上。「なるほど、今の意見にはヒントがあるね。9・11のテロもそうだけど、国が正式に宣戦布告をして始まったわけじゃないよね。つまり、戦争より広い意味で捉えられるのが紛争で、世界はいま、紛争が起こりやすい状況にあると言えないかな」。清水先生はこんなふうにして、問題の核心に迫る答えが学生側から出るまで待ち続け、その答えをもとにさらに次の段階へ導くのだ。

「じゃあ、前回紹介したルワンダの紛争みたいに民族間の虐殺が横行する悲惨な状況を知って、僕らができることって何だと思う？」。当事者意識に訴えかける問いかけに対しては、「募金をする」「援助物資を送る」「抗議活動をする」といった一般的な人道支援策が先行。しばらくして「原因や問題点を明らかにして、次の紛争が起きないようにする」という新たな意見が飛び出すと、「おぉ、ついに私好みの答えが出たね」。どうやら清水先生が導きたい方向へ、また一歩前進したようだ。

暴力を正当化しかねない 社会の構造を問い直そう

清水先生はルワンダの虐殺事件に触れながら再び問いかける。「あの紛争における フツ族のツチ族に対する虐殺行為は当然許されるものではないよ。でももしも、ツチ族の抵抗勢力が盛り返すことなく絶滅させられていたら、どうなっていたと思う？」。「国際社会から非難を浴びる」「新たな争いが起きる」「他国へ侵攻する」など、ひと通りの意見を聞いた後、「私はまったく逆のことを考えたのよ」と先生。「たとえどんなに他国から非難されようとも、当のルワンダ政府が問題にしなければ、虐殺なんてなかったことになるんじゃないか。むしろ国の安定化を導いた美談として語られるんじゃないか。その可能性ってない？」

静まりかえった教室内に、緊張した空気が流れる。「意表を突かれた」。今にもそんな声が聞こえてきそうだ。アンチテーゼによって示されたのは、「事後的に国家が容認すれば、いかなる暴力も正当化される」という紛争の根本にある社会構造の問題である。

「自分たちもそんな力の論理に守られた社会にいるかもしれないという前提に立って、今の社会が本当に正しいのか、もう一度問い直してみてほしい」と清水先生は訴えかける。自分たちの社会に対して疑問符を投げかける、その姿勢が平和学への第一歩なのだ。

VOICES 学生の声 of University Students

山田 剛志さん（中央）
国際文化学部1年
もともと宗教対立や平和について興味があり、紛争問題を通していろいろ考えられるかと思い選択しました。清水先生はもちろん、みんなから出される意見は、僕の想像を超えるものが多く、それがものすごく刺激になっています。

阪本 紅玲亜さん（左）
国際文化学部1年
400人以上の学生を相手に参加型の講義をやってのける、清水先生の型に捉われないスタイルにまず驚きました。人数が多いぶん、少人数のゼミよりも多彩な意見に出合え、新たな発見をしたり理解を深めたりできます。発言を重ねることで度胸もつきますよ。

溝口 佳祐さん（右）
国際文化学部1年
いろいろなテーマを通して、「平和」についてとことん考えさせられる講義です。平和に対する自分の画一的な概念を改めるきっかけにもなりました。周りの人の意見も参考にしながら、考えをまとめて発表するのがすごく楽しいです。

清水 耕介（しみず こうすけ）**先生**
龍谷大学国際文化学部教授、同大学アフラシア多文化社会研究センター長。ニュージーランド国立ヴィクトリア大学政治学国際関係学大学院博士課程修了。博士（国際関係学）。専門は、国際関係、国際政治経済学、政治思想。とりわけ、国際関係に生じる暴力のさまざまな問題に精通。近年の主な研究テーマは、国際関係の変化のプロセスと暴力・文化の関係について。近著（共著）に『紛争解決 暴力と非暴力』（2010年、アフラシア叢書）がある。

龍谷大学

資料の請求およびお問い合せ先
〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町 67　入試部
TEL 075-645-7887　FAX 075-645-4155
PC　http://www.ryukoku.ac.jp/admission/
携帯 http://www.ryukoku.ac.jp/admission/mobile/

文学部
経済学部
経営学部
法学部
政策学部
理工学部
社会学部
国際文化学部
短期大学部

［ 沿革・歴史 ］

1639年	京都西本願寺境内に学寮が竣工され龍谷大学の歴史が始まる。
1655年	幕府の命令により学寮を破却、以後「学林」と称す。
1876年	学林を大教校と改称する。
1879年	大教校落成。　※現在の大宮キャンパス（京都市）本館など。
1922年	旧制大学令による認可を受け、龍谷大学と改称。
1949年	新制大学令による龍谷大学となり、文学部（4年制）を開設。
1950年	短期大学部開設。
1960年	深草キャンパス（京都市）開設。
1961年	経済学部を開設。
1966年	経営学部を開設。
1968年	法学部を開設。
1989年	瀬田キャンパス（大津市）開設。理工学部、社会学部開設。
1996年	国際文化学部開設。
2009年	創立370周年。
2011年	政策学部開設 龍谷ミュージアム開館。

［ オープンキャンパス情報 ］

瀬田キャンパス
7月22日(日) 10:00～16:00(予定)
深草キャンパス
8月6日(月)・7日(火) 10:00～16:00(予定)
瀬田キャンパス
8月25日(土) 10:00～16:00(予定)
深草キャンパス
9月30日(日) 10:00～16:00(予定)

詳細は、龍谷大学入試情報サイト（http://www.ryukoku .ac.jp/admission/）でご確認ください。

資料請求は簡単！本紙に掲載した大学（私立大学のみ）の案内資料は、P36のハガキ、または東進のウェブサイトwww.toshin.comから請求できます。